



ものあはれ 源流(の)旅

言霊の国日本―「ことば」はその土地の独特の気候風土が育んだ感性によって紡がれたものです。複雑で微妙に移ろいゆく京都の自然は当然そこに住む人々の心に影響しました。

平安の時代、物語はもともと読むものではなく聴くもので、語りの担い手は高位の女官「女房」でした。千年の昔京都で生まれた源氏物語を「今女房」が京ことばで語ることに、気候風土のもたらす発想の息吹そのものが「音」となって響いては消えるその中に、源氏物語の底に流れる「もののあはれを」くみ取っていただけることを願います。

女房語り 山下智子



税込 3000円

女房語り 山下智子

音楽 雅楽ユニット 天地空

- 雑喉文右衛門：箏、楽琵琶、和琴
- 江口由美：龍笛、箏
- 松岡仁美：笙



*QRコードからお申し込みいただけます

- 一、紅葉の賀
- 二、藤壺への思い
- 三、若草の君と左大臣の姫
- 四、罪の皇子誕生
- 五、紫のゆかり立后
- 六、紅葉賀の段
- 七、「青海波」

『雀の子を』

犬君が逃がしてしまつたの。伏籠の中にとじこめといたのに。『若紫』の巻より

第五帖【若紫】あらすじ

春、病気の治癒のための加持祈祷に聖を訪ねた北山の地で、源氏は慕つてやまない藤壺の宮に面差しを映す若草のような少女に心を奪われる。宮の姪と知り、もらい受けたいと祖母の尼君に所望するが断られる。

京に戻った源氏は、藤壺の宮が病気のために実家に下がっているとき聞き、この折にこそと王命婦に手引きさせ、宮との夢のような逢瀬が実現する。結果源氏の子を身籠もつた宮は、苦しんだ挙げ句に帝の御子として奏上、帝を喜ばせる。二人は犯した罪の重さを恐れ嘆く。晩秋に尼君が亡くなり、少女が実父兵部卿の宮に引き取られるときくや源氏は先んじて彼女を強引に二条の院に迎えとり、思い通りの女に育て上げるべく教育を始める。次第に新しい生活にとけ込んでいく少女に藤壺の宮の面影を見出す源氏は、その成長に期待し胸膨らませる。

初めてのCDが発売となりました。

「京ことば源氏物語 第七帖【紅葉賀】」

西区民センター主催 古典を愉しむ会
ものあはれ(源流)の旅
全五十四帖連続語り
中井和子現代京ことば源氏物語より
(天修庵音源語り)

京ことば源氏物語

●女房語り 山下智子

第五帖 若紫の巻

令和六年 三月二十三日(土)

【開演】午後一時(開場 午後二時二〇分)

【会場】ハウスビルシステム西区民センター

大阪市西区北堀江四―二―七

電話 06・6531・1400 FAX 06・6531・1402

【料金】一五〇〇円(要予約・前売り券) 当日券二〇〇円 (定員80名)

- 【司会】中井和子
- 音楽 ● 天地空ほか
- 司会 ● 加納玉穂
- 協力 ● 西区体育厚生協会 文化企画部

※本公演は多くの交通機関運行に支障をきたす天災災害があった際、中止となる可能性がございます。予めご了承ください。

【お申込み・お問い合わせ】

ハウスビルシステム西区民センター

1階窓口にご来館いただくか、

電話 06・6531・1400にて、

お申込みください。FAXでのお申込みは、

06・6531・1402まで、

お名前(ふりがな)、ご年齢、郵便番号、ご住所、

お電話番号、緊急時連絡先電話番号、

この催しをお知りになるきっかけとなった媒体名をご記入の上、

ご送付くださるようお願い申し上げます。

山下智子プロフィール
京都市出身。仲代達夫主宰無名塾に学び、三島由紀夫近代能楽集「道成寺」「熊野」はじり舞台、TVにて活動。2003年より声の表現中心に活動。NHKラジオドラマにレギュラー出演と作品提供。朗読劇、映像番組、文楽人形芝居での語り、電子辞書、大修館書店国文教科書CD等での朗読。

「京ことば源氏物語」の女房語りを通し、失われゆく美しい京ことば、やまとの心を後世に伝えるべく各地で語り会をひらき国内のみならず海外でも好評を博している。

東京、京都、大阪にて全五十四帖連続語り会を開催。

京都観光おもしろ大使。 <http://www.genji-kyokotoba.jp>

国文学者・中井和子先生について
氏は生粋の京女。府立大学で古文学の教鞭を執りながら十五年の歳月をかけて源氏物語全五十四帖を今から百年程前の京ことばに全語訳された。失われつつある京のことはや感性を後世に残すために源氏物語と相応しいものはなかった、一人の京都人として誇りに思います。2009年1月永眠。

